

2025年度入学試験（7月）  
大学院デザイン工学研究科

建築学専攻 修士課程  
総合2年コース  
作品評価型

入学試験問題

[即日設計]

2024年7月6日（土）  
13:30～18:30

＜解答要領＞

1. この問題用紙のほかに、計算用紙（A4版）1枚、トレーシングペーパー（A2版）2枚を配付する。
2. トレーシングペーパーには2枚とも、受験番号・氏名を記入すること。  
また、問題用紙・表紙にも受験番号・氏名を記入すること。
3. トレーシングペーパー2枚のうち、1枚は提出図面製作用、1枚はエスキス用とする。  
（エスキス用は用紙右上に、エスキス用と明記すること）
4. 筆記用具のほか定規・製図板・方眼紙・メンディングテープは使用可。  
テンプレートは、正円・正方形は可、だ円や家具などは不可。
5. 問題用紙、トレーシングペーパー2枚を提出すること。

受験番号	
氏名	

2025 年度法政大学大学院デザイン工学研究科入学試験（7 月） 問題・解答用紙

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号			
即 日 設 計  (1枚目／1枚中)	デザイン工学研究科 建築学専攻 修士課程 総合2年コース	不可	不可				
				氏 名			

課題：不便さを楽しむ家

不便益という考え方がある。例えば、市民によるコモンガーデンは、自分達の手で植栽の手入れや道具のメンテナンスをしていくことが想定されている。手間や協力を必要とするが、植物を愛でることが暮らしの喜びとなったり、世代を超えた地域の連帯を生んだりする。手間が、単なる不便さを越えた別の価値を帯びることがポイントである。これが場所として定着すると、一般的な公園とはまるで異なり、当事者性や能動性が育まれることとなる。

現代の都市は、自分でメンテナンスすることもままならない家や装置で埋め尽くされている。メンテナンスフリーやアフターサービスという考え方は、一見手間がかからない便利な暮らしを想像させるが、同時に、自分自身の手で自分の住まいや道具に手を入れていく権利を放棄しているとも言える。これは、便利さに伴う害、すなわち便利害とも言えるような状況である。

ここでは、上記を踏まえ、不便さを楽しむ家を設計してほしい。

設計条件について

- ・不便さは、空間構成、構法、ディテール、素材、暮らし方など、どこに取り込んでも良い。
- ・単なる不便な状態ではなく、不便益としてのポテンシャルを発揮する工夫をすること。
- ・建物の延床は約 100 m<sup>2</sup>とする。
- ・敷地の形状や接道、周辺環境などは各自の自由設定とする。

解答について

- ・設計意図を示す作品タイトルおよび設計趣旨(150 字程度)を記載すること。
- ・要求図面の指定はない。平面図と断面図は必ず描くこと。さらに、部分詳細図、パースなどを自由に加え、魅力的な状況を伝えること。それぞれの図面の縮尺は各自が選択し、表現すること。
- ・図面の着彩は自由とする。